



# 5月の園だより

新緑がまぶしく、爽やかな風が吹き抜ける季節となりました。

新しい環境にドキドキしていた子どもたちも、少しずつ自分の「居場所」をみつけはじめています。朝の登園時、お家の方と離れる際に少しだけたくましくなった背中や、お友達の名前を嬉しそうに呼ぶ声に、確かな成長を感じる今日この頃です。

5月は、新しい環境への「適応」から自分なりの「楽しみ」を見つける時期へと移り変わります。園庭の植物に触れたり、ダンゴムシをじっくり観察したり、そんな何気ない日常の中に溢れる、子どもたちの小さな発見やワクワクする気持ちを、今月も丁寧に見守っていきたいと思います。



## 5月の予定

1日(金)	こいのぼり会	13・14(水・木)...	発育測定
8~29日	個人面談	15日(金)	弁当の日
11日(月)	交通安全教室	15日(金)	さくら組野外保育
12日(火)	パンの日	21日(木)	誕生会
12日(火)	ばら組野外保育	22日(金)	うめ組野外保育
		30日(土)	なかつ子まつり



## お 知 ら せ

・5月8日(金)より個人面談が始まります。今年も当園自慢の美味しいおやつとお飲み物をご用意してお待ちしております。お子さまの様子を共有しながら、リラックスした雰囲気でお話しできれば幸いです。お忙しい中とは存じますが、どうぞよろしく願いいたします。

・うめこうじ佐土原店にて家族の似顔絵を展示しています。

大好きな家族を思い浮かべながらどの子もキラキラした表情で描いていました。子どもたちの愛情がこもった絵を、ぜひご家族皆さまで観に行かれてくださいね。(展示クラス：ばら・うめ・さくら組)

## 先生たち手作り！新しい玩具棚ができました☆

当園が大切にしている「子どもたちが自分で選べる環境」。その第一歩は、子どもたちが自ら手に取りたくなるような環境を整えることです。新年度を迎え、子どもたちがより遊びに没頭できるよう、職員みんなで「玩具の棚」を製作しました。

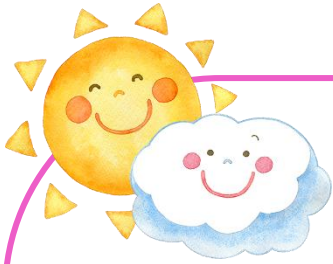


完成



(棚の写真)

どこに何があるか一目で分かり、遊び終わったら「明日もまた遊ぼうね」と、自分たちの力で元の場所へ戻せる。そんな子どもたちの自発的な動きを支える「魔法の棚」になればと願っています。先生たちの愛情がたっぷり詰まった新しいコーナーで、今月も子どもたちの「やりたい！」が大きく膨らんでいくのが楽しみです。



## 子どもたちの「探求心」と、園での衣類の取り扱いについて

本園では、子どもたちが自ら考え、行動する「主体性」を大切にしています。雨上がりの水たまりに飛び込んだり、泥の感触を確かめたりすることは、子どもたちにとって大切な学びや発見の瞬間です。職員もその瑞々しい感触や好奇心を大切に見守っております。

このような姿からより安心して遊び込める環境を整えるため、園での取り扱い基準を皆様と共有させていただきたいと思います。

※衛生面を考慮し園での予洗いをいたしますが、集団生活の場では「個別のご要望」にお応えすることがどうしても困難な状況です。

＼ここが大切なお願いです／

【ご協力いただきたい3つのポイント】

1. 「洗濯機でしっかり洗える服」での登園  
予洗いや洗濯機での洗浄に耐えうる、丈夫な衣類をお選びください。
2. 「デリケートな素材・高価な服」は避ける  
汚れが落ちにくい素材や、傷みやすい衣類は園生活での着用をお控えください。
3. 「毎日」汚れてもよい服での登園  
子どもたちの好奇心は、いつ、どこで動き出すか分かりません。毎日が「汚れても大丈夫な日」であることで、子どもたちは服を気にせず遊び込むことができます。  
毎日汚れてもよいお洋服で送り出していただきますようお願いいたします。



子どもたちが「汚れ」を気にせず、心ゆくまで遊び込める時間を保証し、子どもたちの自由な活動を支えるために皆様のご理解とご協力をお願いします。



## 連休明けの「心の整え方」

ゴールデンウィークは、ご家族で楽しい計画を立てているご家庭も多いことと思います。

この一カ月、お子さまと共に新しい生活リズムに慣れようと、保護者の皆さまも一生懸命駆け抜けてこられたことと思います。本当にお疲れさまでした。

ゴールデンウィークを終えると、大人も子どもも少し疲れが出やすい時期を迎えます。「園に行きたくないな」というつぶやきや、甘えん坊な姿が見られるかもしれません。でもそれは決して悪いことではありません。

おうちが世界で一番安心できる場所である証拠です。

そんな時は、頑張らせようと励ますよりも、「ギュッと抱きしめること」や「今日あったことをゆっくり聴くこと」を優先してみてください。

心のコップが安心感で満たされれば、子どもたちはまた自分の力で一歩踏み出し始めます。



第2回目のコラムは♡

## 「待つ」という贈り物



園庭で虫を見つけた子が、じっと動かずに観察しています。大人はつい「お部屋に入るよ」「こうするんだよ」と言いたくなりますが、そこは子どもの思考がフル回転しています。

教育家のマリア・モンテッソーリは、『子どもを助ける時は、子どもが自分ひとりでできると確信した瞬間に、その場を去りなさい』という言葉を残しました。大人が先回りせず「待つ」ことで、子どもは自らの力で答えを見つけ、大きな達成感を味わいます。この成功体験こそが、将来の自信へと繋がっていくのです。



この「待つ」という行為は、実は大人の忍耐も必要ですが、信じて見守るその一歩が、自ら学び出す芽を伸ばす最高の肥料になります。